

010805プラスチック製品製造業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発生時	死亡災害事例	起因物 (小)	事故の 型	労働者規 模
2022	1	14 ～ 16	食品包装用フィルムの押出ラミ2号機ラインにおいてトラブルによりラインが停止し、パウダー機内に残留したフィルムを除去作業中に、後続するタッチロールが動きタッチロールとカッターアーム軸に頭部をはさまれたもの。	163	7	300 ～ 499
2022	1	8 ～ 10	工場に納品を終えた大型トラックを誘導するため、被災者が道路を渡り、誘導を終えた後工場に戻ろうと道路を渡る途中で、右側から走行してきた前方不注意の乗用車に引かれて頭部を強く打ち、救急車で病院に搬送されるも死亡した。	231	17	30～ 49
2022	3	14 ～ 16	眼鏡部品等の製造を行っていた木造瓦葺平屋建ての工場から出火し建屋を全焼。焼け跡から2名の遺体が発見されたもの。	999	16	1～9
2022	3	10 ～ 12	FRP製タンクの製造工程において、FRP繊維を直径1.5メートル、長さ6.53メートルのドラムに巻付け作業を行った後、回転させながら乾燥させていた。FRP製タンクを芯の高さ2.33メートル（下端の高さ1.58メートル）で回転させていたが、FRP製タンクの下に労働者が立ち入ったところ、回転軸であるシャフト（鉄製パイプ、径89.4mm）が折れ、タンクの下に立ち入っていた被災者に落下し、死亡したものの。	169	4	10～ 29
		10	製造工程で使用する水等の浄化を行う工場排水最終槽の内、「排水沈殿槽」内において、背中を上にした状態で水面に浮いている被災者が発見さ			50～

2022	4	～	れたもの。被災者は当該槽の点検を担当しており、排水沈殿槽の点検等	417	10	99
		12	を当該槽上に架設された鋼製の通路上から行っていた際に、槽内に転落したものと推定される。			
2022	4	～	8 荷物用エレベーターを2階から1階に降下させた際、昇降路の途中で搬器	214	4	30～
		10	が停止してしまったため、バールを持った被災者が1階から昇降路内に立ち入ったところ、搬器が落下し、被災した。			49
2022	6	～	18 惣菜用のプラスチックトレーを裁断する機械（以下、トリムという。）の	169	7	10～
		20	ノックアウトと呼ばれる押し出し装置が外れたため、被災者を含む自社の労働者3名で修理作業を行っていた。トリムは停止させていたが、トリムの上型が邪魔になり、Aが声をかけた後に上型を上昇させたところ、外れたノックアウトを取り付けようとしていた被災者が上型上部とトリムの上部フレームに挟まれ被災したものの。			29
2022	11	～	16 原材料の混練、材料の押出、造粒（ペレット）を行う工程に従事していた	169	7	10～
		18	被災者は、所定終業時刻前となったため、押出機（フィーダルーダー）のホッパー内に残留した原材料の塊もしくはホッパーに付着した原材料のカスの除去作業を、手工具（スクレーパー）を用いて行っていたところ、機械の運転を停止せずに行ったため、被災者は当該機械のホッパー内のスクリュウ部分に挟まれたもの。			29
2021	2	～	8 ブロー成型機を使用し、自動車エアコンダクト成型作業中、プラスチック	164	7	30～
		10	樹脂を挟んで成型する際、横に動く左右一对の金型が開いたまま動かない事象が発生したため、金型の間に入り不具合箇所を確認していたところ、突然金型が閉まり、金型の間で頭部より下の全身が挟まれ、多発外傷性ショックにより死亡したものの。			49
2021	4	～	22 被災者は、工場内にある破碎機の清掃を行うため、破碎機投入口のコンベ	162	7	1～9
		24	アの開口部から機械内に入ったが、稼働していた破碎機の羽根に巻き込まれて死亡したものの。			
			プラスチック成型機の金型交換のため、金型（1枚の重量1000～1500kg、4枚）を積載したラック台車を、被災者が前方でラック台車を引			

2021	7	10 ～ 12	き、同僚が後方でラック台車を押し移動させていたところ、ラック台車の自在キャスターが溝のグレーチング間の隙間にはまったことでラック台車が倒れかけ、被災者がラック台車が倒れるのを防ごうとしたところ、ラック台車が倒れ、下敷きとなり死亡したものの。	417	7	100 ～ 299
2021	7	8 ～ 10	当該事業場は地中に埋設する導管等を製造する事業場である。被災者ほか3名は、運送業者のウイングボディ型トレーラーの荷台に積み上げられた導管を荷卸しするため、フォークリフトのフォークにパレットを挿して高さ約2.3mに上げ、上の導管をずらしてパレットに積む作業中、被災者が地面に墜落したものの。災害発生直前の状況を見た労働者はいない。被災者を含め、全員がヘルメットを着用していなかった。	222	1	1～9
2021	9	22 ～ 24	破砕機に接続した鉄製のコンベアが倒れ、その下敷きになったもの。	224	6	1～9
2021	9	10 ～ 12	被災者がロール状のフィルムを自動バンド結束機で結束する作業を行っていたところ、自動バンド結束機のフィルムリフト用のアーム（棒状の2本の治具で横倒しのフィルムを持ち上げるもの）と当該結束機のフレームとの間に頭部を挟まれ被災したものの。すぐに救急搬送され、治療していたものの、後日死亡したものの。	169	7	30～ 49
2020	1	6 ～ 8	フォークリフトを使用して貨物自動車の荷台からフレコンバッグを卸すため、被災者が荷台上のフレコンバッグの上に乗って、フォークリフトのフォークに、フレコンバッグに取り付けたロープを結びつける作業を行っていたところ、バランスを崩し、2.22m下の地上に墜落した。	221	1	1～9
2020	4	14 ～ 16	被災者は、工場において、押出機に投入される粘土状の材料を間引いていたところ、押出機内部のスクリーに上半身を巻き込まれ即死したものの。	169	7	1～9
2020	9	20 ～	食品包装用フィルムの製造ラインにおいて、当該フィルムを横方向に引き伸ばすテンターと呼ばれる設備にて火災が発生したものの。同ラインでは8	169	16	300 ～

		22	名が従事しており、内2名がCO中毒により死亡し、1名が喉を傷めて入院したもの。			499
2020	9	20 ～ 22	食品包装用フィルムの製造ラインにおいて、当該フィルムを横方向に引き伸ばすテンターと呼ばれる設備にて火災が発生したもの。同ラインでは8名が従事しており、内2名がCO中毒により死亡し、1名が喉を傷めて入院したもの。	169	16	300 ～ 499
2020	12	8 ～ 10	当該事業場は、プラスチック容器を製造する事業場であり、災害は製造工程で出る端材を粉砕する機械の保全中に発生した。被災者は、粉砕機の刃の交換のため、粉砕機の上半分のカバーを開け、チェンブロックで固定して閉じないようにし、刃の交換作業を行っていたが、チェンブロック外れていたため、カバーが自重で閉じ、被災者の頭部がカバーと防音壁の間にはさまれ死亡した。	162	7	300 ～ 499
2020	12	8 ～ 10	真空成型機（プラスチックシートを成型しプラスチック容器を製造する機械）を操作していた被災者が、頭部を負傷し同機械に寄りかかっていると工場長に発見されたもの。救急搬送されるも、収容先病院で死亡が確認された。原因は、金型に付着した異物を除去しようと、頭と手を伸ばした際に頭を機械に挟まれたものと推測される。機械には機械の扉を開けると機械が停止するインターロックがついていたが、無効化されていた。	169	7	1～9
2019	1	20 ～ 22	派遣先事業場から、派遣元事業場が所有する送迎用自動車に乗り合わせて帰宅する途上の交差点で、右側から進行してきた軽自動車と衝突。そのはずみで当該送迎用自動車が電柱等に激突し、乗員8人のうち、1人が死亡、5人が負傷した。	231	17	50～ 99
2019	7	20 ～ 22	被災者は、PET製造工場において、つり上げ荷重1tの床上操作式天井クレーンを運転して、フレコンバッグに入った約800kgのPET製品の不良品を破砕したものをつり荷として原料ホッパーまで運搬して投入しようとしたところ、フレコンバッグのつり具に掛けるつり紐部分4本のうち2本が突然切れたため、落下した荷とホッパーの間に頸部を挟まれたもの。	611	4	50～ 99

2019	9	16 ～ 18	被災者は倉庫内において一人で荷の片づけ作業を行っていたが終業時間になっても本社に帰社しなかった。そのため、会社の者が倉庫に確認に行ったところ、頭から血を流した被災者を発見し、その後救急搬送されたが死亡したもの。	999	1	100 ～ 299
2018	1	18 ～ 19	真空成型機の運転中、上シリンダーとフレームチェーンカバーとの間に頭部が挟まれ死亡した。真空成型機には扉はあったが、製品等の状態を確認するために開放されている状況であった。	169	7	1～9
2018	4	6 ～ 7	イベントに出席するため事業主と出張し、翌日の朝に宿泊先のホテル客室で死亡しているところを発見されたもの。発症前1ヶ月間の時間外労働が100時間を超えていた。	921	90	30～ 49
2018	4	12 ～ 13	事業場内にて打ち合わせ中、労働者がくも膜下出血を発症して倒れ、死亡したもの。	921	90	100 ～ 299
2018	4	4 ～ 5	フォークリフトでプラスチック原料を運搬後、空荷でフォークリフトのマストを高く上げた状態で走行移動中、減速せずに急ハンドルを行った為、フォークリフトが転倒し、負傷した（負傷原因詳細不明）。後日びまん性脳損傷により死亡した。	222	2	30～ 49
2018	7	4 ～ 5	フィルムロールを梱包するラインにおいて、コンベアと倒立機（コンベアで運搬されたフィルムロールを立て起こす機械）との間に被災労働者が頭から胸部にかけて挟まれたもの。災害発生後は脳死状態であったが、後日死亡判断が下された。	224	7	300 ～ 499
2018	7	10 ～ 11	事業場内での熱中症を原因とする死亡災害。被災日前日から翌日まで1人で金型作業室にいた。その間、同僚と何回か会話をしており、体調が悪い、気分が悪いと被災者が話していたとのこと。トイレに入る被災者を見かけ、10分後トイレで倒れているところを発見。呼吸はあったが意識朦朧としており、呼びかけにも応じなかった。救急搬送されたがその後死亡が確認されたもの。	715	11	10～ 29
			ブロー式射出成形機を用いてプラスチック製品の成形作業を行っていた			

2018	10	14 ～ 15	際に、射出成形機の前面で作業していた被災者が、低速で前後に動く射出成形機と、射出成形機に近接する工場の構造柱との間に頸部を挟まれたもの。	164	7	1～9
2018	12	21 ～ 22	被災者は、フォークリフトを用いて屋外に置かれていた、ペレット原料の運搬作業に従事していた。製造作業場所に戻ってこなかったため、同僚が探したところ、ペレットの入っていたフレコンバック（約1トン）の下敷きになっていたところを発見されたもの。	611	5	10～ 29
2017	2	6 ～ 7	午前6時過ぎ、鉄筋2階建て工場建屋から出火しているのを通行人が通報し消防車数台にて消火活動を行った結果、約2時間後の午前8時に鎮火した。工場建屋は骨組みを残しほぼ全焼し、焼け跡から、当日午前5時半に出勤していた被災者の遺体が発見された。出火時は被災者のみが工場内にいた。事業場内には作成した可燃性のFRP製品やその材料等である有機溶剤が多数あり、それらにより火が一気に広がったと思われる。	511	16	1～9
2017	5	0 ～ 1	被災者は、大手取引先からのクレーム、日常業務における部下などからの苦情処理が発生し、これへの対応を余儀なくされたという業務上のストレスを原因として、精神障害を発症し、自殺した。	921	90	50～ 99
2017	8	10 ～ 11	被災者は、4トントラックにて片側2車線の国道の追い越し車線を走行中、後方から走行してきた別のトラックに追突され、外傷性ショックにより死亡した。	221	17	100 ～ 299
2017	11	10 ～ 11	大型トラックに追突された。	221	17	50～ 99
2016	6	14 ～ 15	リサイクル工場で、投入コンベアの上から粉碎機内の材料を確認中、誤って稼働中（回転中）の粉碎機に転落し、全身が機械に巻き込まれた。	162	7	1～9
		10	攪拌機にペレットを入れ、フレコンバックに詰める作業を行っていた。フレコンバックに適度な量が入ったところで、攪拌機の底の蓋を閉じて、残			

2016	8	～ 11	りのペレットを入れるために、フォークリフトで攪拌機を持ち上げたところ、攪拌機が落下した。その際、近くで作業を行っていた被災者が攪拌機の下敷きとなり、負傷した。事故後、救急車で搬送されたが、死亡が確認された。	222	4	10～ 29
2016	9	～ 16	被災者は、工場内にある破碎機の清掃を行うため、破碎機投入口のコンベアの開口部から機械内に入ったが、稼働していた破碎機の羽根に巻き込まれて死亡した。	162	7	1～9
2015	5	～ 17	射出成型機の金型の奥にあるレール部のグリスアップ（事業場での通称「立ち上げ作業」）を行おうとした労働者が、スライドしてきた金型に頭部を挟まれたもの。	164	7	10～ 29
2015	10	1 ～ 2	被災者は、フォークリフト（最大荷重1.4 t）を運転操作中、何らかの原因でフォークリフトが横転し、車体と地面との間に頭部を挟まれ死亡した。当時、フォークリフトの作業装置は地上より約3 mの高さにあり、荷は積載されていなかった。また、路面にはタイヤ跡が残されていた。なお、災害発生時は、休憩時間中にあり、物音を聞いた同僚が、被災者を発見したもの。	222	2	100 ～ 299
2015	2	～ 6	被災者は貨物自動車（最大積載量13.5 t）を運転し、北陸地方から関東地方まで医薬品の運送作業に従事していたが、運転していた貨物自動車の荷台内に倒れていたところを発見され、死亡が確認された。	921	90	30～ 49
2015	3	11 ～ 12	事業場所有の2 tトラックを運転して、事業場から取引先に製品を搬送し会社へ帰社途中、市道を走行中、信号のないT字路で進行方向前方のコンクリート擁壁に激突し、搬送先の病院で頸部損傷による出血性ショックにより死亡した。	221	17	10～ 29
2015	1	19 ～ 20	工場1階のエクストルージョンコータ（フィルム加工機械）で加工していたフィルムが排出側で詰まり非常停止がかかったことから、詰まったフィルムの除去等復旧作業のため、被災者がスプライサーアームの下方に立ち入って作業していたところ、共同作業者の1人が非常停止を解除する操作を行ったために、当該アームが原点復帰しようと被災者の上に降りてきた	163	7	100 ～ 299

			ことから、これに挟まれ、負傷したものの。			
2015	9	19 ～ 20	プラスチックシート成型機を運転中、製品の仕上がり具合を見るため、成型機の内部に頭部を入れて確認していたところ、上下するスライド（上型を固定するプレート）とガイドカバーとの間に頭部を挟まれ死亡した。扉を開けると運転が停止されるリミッターが設置されていたが、ガムテープが貼付され、安全装置が機能しない状態とされていた。	169	7	10～ 29
2015	10	19 ～ 20	被災者は、真空成形機を使用してプラスチックの成形加工を行っていたが、加工中のプラスチックに異常が無いかどうか確かめようとして、機械の中を確認したところ、頭部を挟まれたもの。	169	7	10～ 29
2015	8	23 ～ 24	交代のため出勤してきた同僚が、工場内で倒れている被災者を発見。被災者に意識はなく、救急搬送したものの、翌日19時5分に熱中症を原因とする急性循環不全により死亡。工場では、フッ素樹脂のスクラップを溶融し、押出機にて糸状に成型してから裁断し、出荷用のペレットを製造している。工場は三交代の勤務体制である。被災者は15時から24時の時間帯に勤務しているが、18時から24時まで毎日被災者一人で作業をしていた	715	11	1～9
2014	8	6 ～ 7	稼働中の巻取機にて、プラスチック板を巻取っていた紙管を巻き替える作業を行っていたところ、巻取機の巻取りアームとガイドロールの間に挟まれた。	163	7	100 ～ 299
2013	2	8 ～ 9	被災者は、天井クレーン（定格荷重1t）を用いて金型（重量約970kg）をつり上げ、マシンにセットするため移動させていたところ、フックブロックとチェンの接続部分のピンが破断して金型が落下し下敷きとなった。	211	4	30～ 49
2013	3	8 ～ 9	使用済みのフレキシブルコンテナを粉碎機に投入し加工する作業中、労働者が頭を打ち死亡した。尚、災害発生現場近くにいた者によると、被災者がフレキシブルコンテナを粉碎機に投入する際、つりベルトが被災者の腕に引っ掛かり、粉碎機の巻き込む力が強かったため、「被災者は体ごと粉碎機に引き付けられ、投入口の下端に頭を打った」と。	162	3	1～9

2013	9	18 ～ 19	被災者は、ブロー成型機に左前頭部を挟まれ、頭蓋骨骨折により死亡した。	164	7	50～ 99
2013	2	17 ～ 18	F R P 製タンクの製造業務において、高さ3.9mのローリング足場上で天板の加工作業を一人で行っていた被災者は、タンクと足場の間から墜落した。	411	1	1～9
2013	1	1 ～ 2	被災者は、樹脂を混合する機械の清掃作業を行っていた。樹脂を混合機に送り込む投入路の最上部付近に、樹脂を押し込むための錘を最上部まで上げて隙間を作り、ストッパーで錘を保持して、中2階床面付近から投入路に身を乗り出して作業をしていた際、ストッパーのレバーを固定するブロックが破損し、ストッパーが外れたため錘が急落下し、被災者は頭から右腕にかけて投入口と落下した錘との間に挟まれた。	162	7	10～ 29
2013	5	9 ～ 10	プラスチック容器の成形ラインにおいて、機械（重量700kg）の入替作業に際し、撤去する機械をジャッキアップしていたところ、当該機械のバランスが崩れ、当該作業中の被災者側に倒壊し、床との間に挟まれた。	391	5	100 ～ 299
2013	5	16 ～ 17	インジェクション成型機の金型保管場所で、金型を金属製ラックにしまう作業をしている際、金型が手前に倒れてきて体の右側に当たり転倒した。	521	5	100 ～ 299
2013	9	10 ～ 11	射出成型機（真空成型機）で使用する金型を移動式ラックに乗せ、当該ラックを動かしたところ、金型がラック上部のローラーを滑り落下（高さ1.56m）し、被災者の頭部を直撃した。尚、移動式ラック上部には射出成型機にセットするためのローラーが設けられており、端部には安全ストッパーが設けられていたが、使用していなかった。	521	4	50～ 99
2012	1	7 ～ 8	プラスチック再生工場において、使用済ペットボトルを破砕する作業に従事していたが、金属探知コンベヤーにペットボトルを投入する作業中、コンベヤーのプーリー部分に挟まっていたペットボトルを取り除こうとして、機械の運転を停止せずに右手を入れたところ、コンベヤーのベルトと	121	7	10～ 29

			プーリー間に右肩付近まで巻き込まれた。			
2012	2	17 ～ 18	立体自動倉庫内において、スタックークレーンでラック棚にポリエステルフィルムが梱包された箱6個（1個：96.7kg）を搬入しようと、パレット上に被災者が箱を載せる作業中、5個目を載せる際隣の荷受け台上に乗り、箱を移動させている途中で足が滑り転倒。その際箱を持っていたため、被災者側へ箱が倒れてきて、箱の下敷きとなった。	611	2	50～ 99
2012	11	7 ～ 8	被災者はプラスチック原材料を攪拌するヒータミキサー内に立ち入って掃除作業を行っていたところ、同僚作業者がヒータミキサーの起動スイッチを押したためヒータミキサー内の攪拌羽が回転し、攪拌羽に巻き込まれて死亡した。なお、同僚労働者はクーラミキサーの起動スイッチを押すつもりであったが、誤ってヒータミキサーの起動スイッチを押したため、本件災害が発生した。	162	7	50～ 99
2012	3	1 ～ 2	夜勤中の被災者が、射出成型機の金型（重量約1.5 t）交換作業において、金型固定用のピンをセットしないまま作業を行っていたところ、何らかの理由で金型が成型機から脱落し、上半身が金型の下敷きになり死亡した。	164	4	300 ～
2012	12	9 ～ 10	工場内で大掃除中、被災者は竹竿の先にエアースを結びつけ、そのエアースで天井クレーンのホイスト部分の埃を払う作業等をしていた際、乗っていた高さ約2mの作業台の登り口付近から墜落し、更に、その下に設置されていた深さ1.5mのタンクの底まで墜落した。	418	1	10～ 29
2012	3	15 ～ 16	被災者はペット樹脂製造用の粉末原料の入ったフレコンバッグ（重量約1 t）の下敷きとなり死亡した。被災者はフォークリフトを使い、3段に積み重ねられたフレコンバッグを一つずつ持ち上げ、原料をホッパーに投入する作業を単独で行っていたが、2段目のフレコンバッグの一つに穴が開き型崩れしたことに伴い、3段目のフレコンバックが落下、フレコンバックから流出する材料を手で押さえていた被災者を直撃した。	611	5	50～ 99
2012	8	14 ～	被災者は工場内で粉碎機にてプラスチック製品の粉碎作業中、突然仰向け	921	2	10～

		15	に倒れ、救急搬送先の病院で死亡した。			29
2011	4	0 ～ 1	被災者は、射出成型機の自動運転を停止し、成型部への材料供給を止めるため、成型部と射出ユニットを切り離そうと射出ユニットを移動させていたところ、射出ユニットと柱との間に胸部から腹部にかけて挟まれた。	164	7	10～ 29
2011	10	10 ～ 11	T C F 成形機（横2.8m高さ3.8m奥行き4m）という、板状のプラスチック材料を加工し、機械のカバーや照明器具のカバーを製造する機械の上下にあるテーブルの上テーブルの調整作業中の事故。被災者が部下に「下テーブルを「急速下降」スイッチで下げるよう」に指示したところ、下テーブルと連動する上テーブルのさらに上に位置するバーが降りてきたことにより、このバーと上テーブルに挟まれたもの。	169	7	30～ 49
2011	1	21 ～ 22	被災者は3500トンプレス成形機の金型の移動作業を天井クレーンを使用して行っていた。同僚が金型のうえに作業帽が乗っているのを発見して近づいたところ地切りした金型と隣に置いてあった金型との間で挟まれている被災者を発見した。	211	7	100 ～ 299
2011	2	1 ～ 2	プラスチックパレットの製造ラインにおいて、ラインがトラブルにより停止した。被災者はパレット部品の表裏を反転させようとライン内部に入ったところパレット部品を積み上げる搬送装置が被災者の上部から下降してきて胸部を挟まれた。	169	7	300 ～
2011	9	19 ～ 20	2名の労働者が乗車した事業場所有の送迎車が工場に受かって走行していたところ、台風のため道路が渋滞しており橋の上で停車した。両労働者は送迎車から降車し、徒歩で工場に向かっていた際に、車道橋に併設している歩道橋に移ろうとして両労働者が車道橋の欄干（高さ約1m）を乗り越えたところ、車道橋と歩道橋は約50cm離れていたため、その隙間から約5m下（台風により増水）の川に両労働者が墜落したもの。	418	1	30～ 49
2010	11	14 ～ 15	工場内において、当該事業場労働者である被災者が真空成形機により、トイレ製品の一部となる合成樹脂を成形加工中、製品に不具合を発見した為、当該機械の点検作業中、誤って頭部を挟まれ、死亡したもの。	169	7	10～ 29

2010	5	17 ～ 18	被災者はプラスチック原料の入ったフレコンバック（重さ750kg）をフォークリフトを使って3段（高さ約3m）に積む作業を単独で行っていた。作業の途中で被災者が床面のゴミを掃除してたところ、3段のうち上から2段のフレコンバックが崩れ、被災者が下敷きとなったもの。単独作業のため事故を現認していたものはおらず、被災者は翌朝に下敷きとなって死亡しているところを発見された。	611	5	30～ 49
2009	7	10 ～ 11	放電加工を行う機械の放電バーを取り替える作業を行っている時に感電した。	359	13	10～ 29
2009	4	4 ～ 5	プラスチック押出成形ラインにおいて、被災者が原料投入ホッパーと原料の入ったフレコン（重量1t）にはさまれているところを発見された。被災者は、当該ラインの運転補助業務に従事し、原料を補充するため、フォークリフトでフレコンをつり上げて運搬、投入ホッパー上部につり下げた状態でフォークリフトを停車、フレコンの底部を開放すべく底の結びひもを解く際、フレコンが落下してはさまれた。	222	4	50～ 99
2009	7	5 ～ 6	製品であるプラスチック容器の包装前工程において、産業用ロボットで当該容器を積み重ねる自動ラインにトラブルが発生したため、被災者は安全柵で囲われたロボット稼働範囲内に立ち入ったところ、製品を掴んで旋回してきたロボットアーム先端の製品保持ガイドとロボット本体の架台との間にはさまれ死亡した。扉には安全プラグが取付けられていたが、当時、扉を開けた状況でプラグを差し、インターロック機能が無効であった。	167	7	50～ 99
2009	7	13 ～ 14	被災者は、射出成型機金型下部に設置された箔を包んでいた使用済みビニールシート巻き取り機の調整をする際、機械を停止せずに射出成型機下部に身体を入れ作業していたところ、金型と連動して稼働する巻き取り機にはさまれた。	164	7	100 ～ 299
2009	6	4 ～	トリミング機の金型交換作業中に金型の内側に落下した金物を取ろうとして、被災者が機械の上部フレームと上定板の間に身体を入れたところ、出口側にいた同僚の作業者が上定板を上昇させるスイッチを押したため、被	164	7	100 ～

		5	災者は上昇してきた上定板とフレームの間にはさまれた。			299
2009	4	12 ～ 13	豆腐容器成型作業において、成型機で成型されたシートをトリミングマシンで打ち抜く作業中、シートを接続したテープが取れたため、シートの片側がトリミングガイドから外れた。被災者は、外れたシートを復旧させるため、トリミングマシンの運転を停止せず、テーブルがスライドしてはさまれるおそれのある箇所に身体を入れ作業していたところ、テーブルがスライドし、はさまれた。	169	7	50～ 99
2008	10	16 ～ 17	被災者は、フレコンバックに入っている発泡スチロールを発泡スチロール処理機（発泡スチロールを細かく砕いて溶かす機械）に投入していたところ、ホッパー内に転落して鉄製のシャフトに巻き込まれた。	162	1	50～ 99
2008	2	15 ～ 16	工場建屋内のH鋼製天井梁に送風ファンを取り付けるため、爪状のアタッチメントを装備した建設機械にチェーンブロックを介して当該ファンをつり上げた。高所作業車のバケットに搭乗した被災者は、送風ファンの位置調整を行っていた。その際、アタッチメント部に取り付けていたチェーンブロックが外れて送風ファンが落下した時、バランスを崩して被災者が約5mの高さから墜落して死亡した。	146	1	100 ～ 299
2008	5	16 ～ 17	被災者は配達業務の終了後、倉庫に保管するための段ボールをトラックに載せて事業場から倉庫に向かった。その後、「倉庫前に人が倒れている。」との連絡が入ったため確認に行ったところ、被災者が倉庫前に停車してあるトラックの後部で仰向けに倒れているのを発見した。	999	99	1～9
2008	8	10 ～ 11	被災者は同僚と2名1組でポリモック成形機を用いてポリモック製造工程に従事していた。同僚が休憩に入り、10分ほど後に戻ってきたところ、被災者がポリモック成型機のワーク取り出しアーム（加圧し冷却された製品を金型から吸い上げる機械）と材料投入部に位置していた金型との間にはさまれて死亡していた。	164	7	50～ 99
2008	12	14 ～	金型保管用の3段スライド式の棚に置かれていた金型の整理作業中に棚が転倒して金型に激突された。	391	5	30～ 49

		15				
2008	1	9 ～ 10	被災者は同僚1名とともに、工場の天井に設けられた蛍光灯を移設させる作業後、球切れになっていた蛍光灯を交換していた。天井の梁にはしごを架けて同僚が下ではしごを押さえ、被災者がはしごに上って新しい蛍光灯を取り付けていたところ、バランスを崩して、3.5m下の地面に墜落して死亡した。	371	1	30～ 49
2008	2	8 ～ 9	被災者はポリウレタン製の研磨材（板状）を切断する裁断機の調子が悪かったため、出勤後、朝から部下と2人で点検修理等を行っていた。被災者は、裁断機の両側にある点検用の点検口の蓋を外して点検修理中、被災者の指示により部下が裁断機の起動ボタンを押したところ、被災者が裁断機の移動クランプと点検口の縁にはさまれた。	169	6	30～ 49
2008	4	12 ～ 13	フィルムに付着したゴミ等の有無を検査する検反機のロール部分と駆動するバーの間にはさまれた。	163	7	100 ～ 299
2007	9	12 ～ 13	工場2階エレベーター前で仰向けに倒れているのが発見された。エレベーター扉にはさまれて転倒したと思われる。	214	7	10～ 29
2007	9	10 ～ 11	射出成型機で使用するペレット状原料が4段積みされた近くで、出来上がった製品の出荷検査を行っていたところ、最上段の荷が被災者の上に崩れ落ちた。	611	5	50～ 99
2007	2	8 ～ 9	営業先に出掛けようとして社有車駐車場に向かっていた作業者が、入構して搬入口に縦列駐車をしようとしてバックしてきた大型トラック後部に激突され、ひかれた。	221	6	100 ～ 299
2007	1	13 ～ 14	国道の片側一車線、緩やかな坂道のカーブ地点において、被災者の運転するトラックが対向車線にはみ出し、別のトラックと正面衝突し、道路脇に転落した。	221	17	10～ 29
			被災者は、NCルーター一号機で作業を行っていたが、当日の受け持ち分			

2007	9	14 ～ 15	が終了したので、一号機から三号機の床面を順に清掃を行なっていた。三号機ルーターの可動式テーブルの近くの床面を清掃を行なっていたところ、三号機の操作者が機械のスイッチを入れたため、テーブルが可動し、テーブルとルーター機械本体との間に体をはさまれた。	169	7	10～ 29
2007	6	17 ～ 18	プラスチック製品製造工場において、原料を粉碎機のホッパーに投入していたところ、原料が詰まったため、それを取り除こうとした際に手を引き込まれて切断した。搬送された病院で死亡した。	162	7	1～9
2007	8	11 ～ 12	自動倉庫において荷を取り出すためスタックークレーンから降ろされたパレットが荷取り出し口手前のコンベヤーの一部に引っかかり停止した。停止したパレットを直そうとパレットに近づいたところ、リフターが上昇し、パレットが被災者側に傾いた。これによりパレットの上に載っていた荷（鉄製コイル、重量960kg）が被災者側に落下し、被災者は下敷となった。	521	4	300 ～
2007	9	11 ～ 12	プラスチック工場において、印刷不良のヨーグルトプラスチック容器2袋（1袋約10kg）を構内の廃棄置場に運んでいたところ、バックしてきたトラック（4tウイング車）の後輪にひかれた。	221	6	100 ～ 299
2007	9	17 ～ 18	物流倉庫において、ピッキングフォークリフト（運転席がフォークの爪とともに上下する）で倉庫の棚の荷物をとろうとしていた作業者が、運転席部（高さ4.35m）より通路床面に墜落した。	222	1	50～ 99
2006	10	16 ～ 17	被災者は射出成型機の前に立ち、当該機械の操作及び成型された電気配線用プラスチック部品を機械から取り出し機械付設のテーブル上で鉄によりばらす作業を行っていた。被災者の付近にいた者が、鈍い音に気づき被災者の方を見たところ、被災者が後方のコンクリート床上に仰向けで倒れており、意識が不明となっていた。被災者は救急搬送され入院治療を受けていたが、死亡した。	416	2	1～9
2006	10	10 ～	発泡スチロール成型機の金型交換作業で、金型下部の排水ドレン管の接続を被災者が成型機下部に潜り込んで行なっていた。金型調整担当者が金型に余熱を掛けるために金型を閉じたところ、作業中の被災者が金型に挟ま	164	7	100 ～

		11	れた。			299
2006	8	16 ～ 17	被害者は、倉庫内において、一人で製品の入った段ボール箱を取りに行く作業を行っていたが、フォークリフトのマストとヘッドガードのフレームとの間にはさまれているのを発見された。	222	7	10～ 29
2006	7	10 ～ 11	工場内の2階作業場のプラスチック成形機への材料投入口（ホッパー）に被災者がうずくまっているのを同僚が発見し、救出しようとしたところ感電していて触ることができなかつたので、電源を切り病院へ搬送したが死亡した。	418	1	30～ 49
2006	7	6 ～ 7	ビニールシート（幅約2メートル）を連続製造しているラインの、ロール機にシートを巻きつける工程において、操作盤にて自動巻きつけの操作を行ったが、うまく巻きつかなかつたため、被災者は、巻き取りロール機の軸を回転させた状態で機械の内部に入り、素手でロール機にシートを巻きつけようとしたところ、被災者がシートに巻かれた。	163	7	50～ 99
2006	1	8 ～ 9	工場において、ジクロルメタンと樹脂の混合液をフィルムに塗布する機械の側で、倒れていたところを発見されたもの。	519	12	50～ 99
2006	2	11 ～ 12	中空成型機によるプラスチックボトル製造工程において、被災者は金型内に詰まったバリを取り除こうとしたところ金型のホルダーが動いて挟まれた。	169	7	50～ 99
2006	1	17 ～ 18	被災者は、週末の作業打合せのため、その日出社する作業者の確認に行った。その確認後の被災者の行方が不明となり、工場内の製品を自動搬送するストックコンベアにおいて「ガシャン」と音がしたので他の作業者が現場に駆けつけたところ、当該コンベアの昇降装置コンベアに挟まれた被災者が発見された。	224	7	50～ 99
2005	6	2 ～ 3	手押し運搬台車の荷の上に乗る、上の袋を取ろうとした際、台車が動きバランスを崩して墜落した。	362	1	10～ 29

2005	8	6 ～ 7	インスタントラーメン用プラスチックカップの箱詰め機械の復旧作業中、上がって静止していた機械のカップを吸着する装置が下降し、挟まれた。	169	7	100 ～ 299
2005	1	15 ～ 16	工場内で射出成形機から金型を取り外すため、天井クレーンにて金型をつり上げようとしていたところ、クレーンの走行車輪が走行レールから外れ、落下したクレーン本体のサドルが、直下でクレーンを操作していた被災者に激突した。	211	4	10～ 29
2005	1	9 ～ 10	材料置き場で材料の搬入を待っていた被災者が搬入口から2.8m下の床に墜落した。	414	1	10～ 29
2005	11	10 ～ 11	フレキシブルコンテナ（フレコン）に入った樹脂製ペレット（重さ400kg）を小分けするために、フォークリフトでフレコンをつり上げ、フレコン下の取出口から小分け袋に取り出そうと作業をしていたところ、フレコンのつり上げ紐の片方の縫い目が切れたため、荷が揺れて被災者の上に落下した。	611	4	1～9
2005	8	10 ～ 11	金型をクレーンのフックに玉掛けするためにラックの棚を引き出したところ、ラックのアンカーボルトのナットが外されていたためラックがバランスを崩して倒れ、挟まれた。	391	5	1～9
2005	4	2 ～ 3	フィルムに樹脂をコーティングする機械のフィルム巻出し部において、次に使うフィルムロールからフィルム端を引き出し、所定位置にセットする作業をしていたところ、回転するガイドロールと固定されているガイドロールとの間に挟まれた。	169	7	300 ～
2005	8	2 ～ 3	農業用フィルムの製造ラインにおいて品種の切替え作業を行っていたところ、製品重量秤の位置がずれたため、ラインを手動に切り替え、ロールとガイドバーの間に入って秤の位置を修正中、他の作業者がラインのスイッチを入れてしまったために、被災者がロールとガイドバーとの間に挟まれた。	163	7	50～ 99
		19				100

2004	10	～ 20	約3kgの円筒形樹脂製品をNC旋盤で切削加工中、その製品がチャックと呼ばれる固定治具から外れて飛来し被災者に当たった。	169	4	～ 299
2004	6	16 ～ 17	キャスター付きの鋼製枠組台車の上に載せているエアプレス機（自社製の空気式プラスチック製品の圧入装置）を二人がかりで押して移動している最中、作業床にある段差（高さ約3mm）に台車が引っかかり、台車とともに同機が傾き、被災者に落下した。	169	6	10～ 29
2004	3	15 ～ 16	ダンボール製の空容器をフォークリフトに積載して運搬中、後進したところへ、被災者が通りかかり、フォークリフトに激突された。	222	6	1～9
2004	4	23 ～ 24	ペレット入りの1tのフレコン（ナイロン製の袋状のコンテナ）を2段に重ね、その上に25kgの紙袋を重ねてあったが、下段のフレコンが破れ中のペレットが流出し、バランスが崩れて上段のフレコンおよび紙袋が落下、被災者が下敷きとなった。	611	4	100 ～ 299
2004	7	15 ～ 16	プラスチック材料の入ったフレコンバックを巻き上げ機でつり、材料搬入用の容器上に下ろす作業において、フォークリフトに載せたフレコンバックを、材料搬入用容器の上方に置きフォークリフトの運転席と、マストとの間から身をのり出し、荷かけをしようとした際に、後傾したバックレストと運転席の枠に挟まれた。	222	7	50～ 99
2004	12	16 ～ 17	廃材置き場で発泡スチロールの廃材を固めたものを、作業台を使って2人でパレットの上に積み重ねる作業中に、高さ90cmの作業台から墜落した。	371	1	30～ 49
2004	8	14 ～ 15	成型工場内で製造された製品を乾燥室に搬入する作業を行っていたところ、熱中症となった。	715	11	100 ～ 299
2004	4	10 ～ 11	ロール状製品の自動包装機を、包装機の電源が入ったまま調整作業をしていたところ、包装機の内部において、せりあがったローラーと上部の間に挟まれた。	169	7	100 ～ 299

2003	11	10 ～ 11	ベークの材料（1m×2m、50kg位）板を滑らせて移動しているときに、バランスを崩して尻から転倒した。	529	2	10～ 29
2003	9	2 ～ 3	浴室部材を成形している2500tプレス工程において、離型剤を塗布してバリ取りをしているときに材料投入機が作動し、成形機金型上の製品のところに降りていた離型移載機と材料投入機との間にはさまれた。	229	7	100 ～ 299
2003	6	21 ～ 22	射出成形機で成形されたプラスチック製品（スキー靴）が産業用ロボットを介してコンベヤで自動運搬されてきたものの仕分け・検査を行っていたところ、射出成形機に不具合が生じたので、修復するために産業用ロボット稼働範囲内に入って作業を行っていたときに、産業用ロボットが接近してきて射出成形機との間にはさまれた。	167	7	30～ 49
2003	1	11 ～ 12	プラスチック板の成形加工を行う真空成形機の金型表面をエアガンで吹き払うため、真空成形機のテーブル上部に入っていたところ、自動運転上昇してきたテーブルと外枠との間に胸部をはさまれた。	169	7	50～ 99
2002	10	7 ～ 8	ペットボトルの中間生産品を整形する射出成形ラインで、射出成形ラインに組み込まれた製品取り出し機のマンニプレータと射出成形機の金型部分との間に頭部を挟まれた。	169	7	300 ～ 499
2002	11	11 ～ 12	射出成形機でプラスチック製のオートバイ用冷却水タンクを製造する工程において、半自動で成形加工作業中に射出成形機と柱との間（30cm）に立ち上がったときに、自動的に水平方向に開閉する金型が開いたため金型の外側と柱との間（15cm）に胸部を挟まれた。	164	7	300 ～ 499
2002	6	14 ～ 15	プラスチックのペレット（約3mm角）をタンブラーに投入する作業をしているときに、何らかの原因で爆発して火傷により死亡した。（タンブラー内には少量のスレアリン酸亜鉛が入っていた）	511	14	10～ 29
2002	6	11 ～ 12	発泡スチロール成型機の金型交換後、一人でその機械の調整作業をおこなっていて可動式金型台プレートと安全ドアとの間に頸部を挟まれた。	169	7	50～ 99

2002	4	18 ～ 19	廃プラスチックによる成形材料（樹脂ペレット）製造工場で、製品置き場の2段積みのはい（荷姿コンテナバッグ、質量500kg）のうち、上段のコンテナバッグが荷崩れ（落下）し下敷きとなった。	611	4	10～ 29
2002	3	14 ～ 15	塩化ビニル製の消毒槽の製造工程において、加圧成形機の上型と下型（40cm×67.5cm）との間に頭、左肩を挟まれた。	169	7	30～ 49
2002	3	4 ～ 5	射出成形機等の点検整備を行っていたところ、成形機と連動している「パレットチェンジャー（自動パレット移送機）」の「パレット位置決めユニット」が降下し、本体と「ユニット・フレーム」との間に胸部等を挟まれた。	164	7	50～ 99
2001	8	0 ～ 1	商談のため乗用車で県道を走行中、センターラインを40cmほどオーバーしたため対向車の普通貨物自動車と正面衝突した。	221	17	10～ 29
2001	9	11 ～ 12	作業場内NC旋盤機でプラスチック製品の加工作業中、下に落ちた製品を拾うため屈んだときに加工製品を掴んでいる爪とタレット部分(ドリル、バイト等がついている加工部分)との間に頭部を挟まれた。	151	7	10～ 29
2001	4	11 ～ 12	ビニール袋の製造中に、ビニールが切断したので繋ぎあわせるため一時機械を停止し、圧接バーとアーム台の間に頭を入れ作業をしていたところ、他の作業員が圧接バーの操作ボタンを押したため圧接バーが下がり頭部が挟まれた。	163	7	100 ～ 299
2001	1	21 ～ 22	プレスの金型(重さ約500kg)を台車(高さ約160cm)に乗せ、同僚と台車を移動させようとしたときに、金型が腰部に滑り落ちその下敷きとなった。	362	4	30～ 49
2000	2	22 ～ 23	社用車で出張のため走行中、右カーブで雪のためスリップして左外壁に接触し横向きに止まっていたところに、後続の大型トラックが追突した。	221	17	10～ 29
		16	ワインダーでフィルム(PTE)の巻き替え作業を行っていて右腕を巻き込ま			1000

2000	12	～ 17	れ、そのまま振り回されて両足裂傷等により出血多量になった。	163	7	～ 9999
2000	9	～ 10	プラスチックの原料再生工程で、押出機のホッパーに原料を投入してペレットの生産を開始したが不良品が出てきたのでホッパーごと原料を取り除くため、繊維ロープを掛けて天井クレーン(2t)で移動させていたところ、繊維ロープがクレーンフックから外れホッパーが落下して腰付近に当たった。	211	4	10～ 29
2000	1	～ 17	プラスチック製卵容器の入ったダンボール箱をフォークリフトで運搬中、高さ約4メートルの中二階の梁に積み荷が接触したため、マストが運転席側に傾き運転者がその間に挟まれた。	222	7	10～ 29
2000	11	14 ～ 15	同僚と2名で射出成形機の金型を交換し試し打ちを行ったところ、製品が凸型から離型しなかったので金型間に立ち入ってこれを取外し引き続いて同位置でエア弁の調子を確認していたところ、同僚が並行して加工位置脇の機械操作盤で手動によりエアブロースイッチを操作しながらエアの出具合等を確認していて「金型閉」の動作が起動したため、金型間に挟まれた。	164	7	50～ 99
1999	12	3 ～ 4	事業場2階の寮で就寝中、事業場(工場)が火災となり焼死した。	911	16	1～9
1999	11	20 ～ 21	全自動の中空成形機で、2つある型締め装置のうち片方が樹脂注入のため横スライドしたときに、もう一方の型締め装置との間に頭部を挟まれた。	169	7	10～ 29
1999	10	～ 15	プラスチック射出成形機の金型の調整作業で、成形機の軸と金型の傾斜ピッチに足をのせて調整作業を行っているときに足を滑らせて反対側の金型に頭部をぶつけ、約1m下の床面に転落した。	164	1	50～ 99
1999	8	～ 9	プラスチック容器を製造する射出成形機において、工場の責任者と入れ替わる形で機械の近くに移動したときに、上下に動いていた機械の型に挟まれた。	164	7	1～9

1999	8	16 ～ 17	ペレット(プラスチック原料)製造で、袋詰めの粉体原料(1袋25キログラム)40袋をパレットハンガー(つり具)に乗せて天井クレーンで吊上げていたところ、クレーンの巻上げ用ワイヤロープが切れて荷が落下し、クレーンの操作者が下敷きになった。	211	4	10～ 29
1999	7	20 ～ 21	発砲ポリスチレントレー容器の自動生産ラインの自動トリミング設備で、製品積み付け用リフターの運転を停止をしないでリフター部分に潜り込んで、リフターと設備本体フレームとの間に挟まれた。	169	7	50～ 99
1999	3	18 ～ 19	ポリエステルとポリエチレンを貼り合せてフィルムを製造するラミネーター機の巻き取りロール部に入ってフィルムをロールに巻く作業を行っていたときに、あごひも付きの作業帽が巻き取りロールに巻込まれ、あごひもで首を締め付けられた。	163	7	100 ～ 299
1999	2	10 ～ 11	アクリル半成形品を1階から中2階へ移動するため、木製パレットに、木型とアクリル半成形品を乗せて最大荷重2.5トンのフォークリフトで中2階の作業床の端へパレットが半分乗る程度までマストを上げ、次いでフォークリフトを降りて中2階に移動し、アクリル半成形品をパレットから引き出そうとしたときに、1階コンクリート床に墜落した。	416	1	30～ 49
1999	5	11 ～ 12	ダンボール詰めされた製品を1.5tバッテリーフォークリフトで運搬中、最上段の段ボールが崩れたためフォークリフトを止め運転席から操作盤に足をかけてマストとヘッドガードの間から顔を出したときに、体の一部がマストレバーに触れたためマストが後傾し、マストに押された段ボールとヘッドガードとの間に頸部をはさまれた。	222	7	30～ 49
1999	3	10 ～ 11	ロール状の製品をトラックから荷受けするため、高さ約3mに積み上げていた空パレット24枚のうち上部2枚をフォークリフトで地上に降ろし、そのうちの1枚を手作業で横へ移動していたときに、積み上げられた残りのパレットが崩れ落ちてきて、頭部に激突した。	611	5	10～ 29

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。